

# 化粧による女性アスリートの変身

松内 紗也香 (愛知教育大学)

## はじめに

本研究では、化粧とスポーツの関わりについて歴史的に調べ、女性アスリートと化粧の関わりが競技にどのような影響を与え、発展していくのかについて考察した。

なお、本研究で対象とする女性アスリートは近代オリンピックの夏季大会で行われた、出来高重視の競技を対象とすることとした。

## I. 化粧と女性アスリート

「化粧」とは『広辞苑』第七版より「紅・白粉などをつけて顔をよそおい飾ること。美しく見えるよう、表面を磨いたり飾ったりすること」である。

化粧を行うプロセスは個人の人格と関連しており、化粧の基本的な動機は他者との関係の調和、一般的な常識的行動への関与度の高さであると考えられている。

化粧をする女性アスリートの台頭は、IOC公式写真集から1984年第23回ロサンゼルス大会に出場したアメリカ人選手たちであると判断できた。そして、日本に大きな影響を与え始めたのは、1988年第24回ソウル大会に出場したアメリカのFlorence Griffith Joynerであると言えよう。

スポーツ界での化粧の広がりや、80年代に流行ったディスコの影響によりアメリカで鮮やかなメイクがトレンドとなったことと、人気が高く歴史ある陸上競技でアメリカ人選手が活躍したことが要因として考えられる。

## II. 化粧の必要性

女性アスリートは、化粧がもつ「積極性の上昇」「リラクゼーション」「対他的気分の高揚」「対自的気分の高揚」「安心」という五つの気分因子を利用して競技に挑みモチベーションを上げたり、不安を低減させリラックスした状態を創り出ししたりしていることが分かった。

さらに、化粧前後の瞳孔の開きやシュートスピードの変化から、覚醒レベルが上がりアドレナリンが分泌すること、ベストパフォーマンスを発揮する効果があるということが明らかにされている。

女性アスリートの化粧に対するニーズの高まりは、アスリートビューティーアドバイザーという職業の確立やスポーツ化粧品の開発・市場の拡大からも分かる。

## III. スポーツへの影響

女性がアスリートとしての活躍をメディアに取り上げられる機会は男性と比べて少なく、容姿の美しさや性的魅力を重視されて取り上げられやすい。女性アスリートは化粧を施し、それらを自己アピールの手段として利用、メディアによる子どもの扱いや男らしさを払拭していると考えられる。

さらに、現在はSNSの発達によって個人が発信するメディアが力を持ち、「見られる」に加えて「見せる」機会が増加している。「見られる」「見せる」を意識し、美しく見られたいという願望から魅せる化粧を施すアスリートが増加している。

化粧を8年間継続している野口啓代（スポーツクライミング）の実績から化粧の継続は良い成績を収めること、成績が落ち込む要因になるということは言い切れない。しかし、良い成績を比較的安定して収める一因として機能する可能性があるものの、化粧を継続することで競技の成績が大きく変化するという事は明らかにされていない。

## おわりに

化粧を施した状態で競技することは女性アスリートに心理的側面で良い影響を与えパフォーマンスを向上させ、より良い成績を期待することができると言えよう。

今後は一層、女性スポーツ界に化粧をはじめとする美容が浸透し、女性アスリートは強さと美しさを兼ね備えた象徴になっていくと考えられる。